

令和5年7月18日

小平市教育委員会教育長 殿

小平市立学園東小学校給食運営委員会

委員長 三坂 明子

令和5年度 小平市立学園東小学校給食運営委員会（第1回）について

このことについて下記の通り報告します。

記

日時： 令和5年7月18日（火） 午後0時30分から午後1時20分まで

会場： 学園東小学校 視聴覚室

出席者： 13名

傍聴者： 0名

会議の概要

1 委員長挨拶

本日は、暑い中お集まりいただきありがとうございます。年に1回、この委員会を開催している。この会は、給食をご理解いただくこと、また、調理業務を委託化している学校では、どのような運営がなされているかを知っていただくことを目的としている。試食して、お気づきの点や日ごろお子様を通じて感じていることなど忌憚ないご意見をいただきたい。

2 委員紹介

3 試食

* 献立の説明

本日の『いわしのかば焼き丼』は、「7月30日の土用の丑の日」にちなんだ献立である。

地域の井上農園さんには、給食食材の納入だけでなく、収穫体験など食育にも協力いただいている。

4 協議、質疑応答

（1）市教育委員会より

(学務課長) 現在、小平市立小学校19校のうち14校は調理業務を委託化している。委託化している学校では、学校長が中心となり、保護者、受託事業者、教職員、教育委員会が一堂に会して試食を行い、給食についてご理解いただき、よりより給食運営に向けてのご意見交換をする場としてこの会を開催している。保護者の方には、感想もふくめ、忌憚なきご意見やご家庭での給食に関するエピソードなどをお聞かせいただけるとありがたい。

昨今の物価高騰の中でも、保護者負担額の給食費を変更なく実施しているが、実際には、運営は非常に厳しい。このことから、昨年度、今年度については、市が物価高騰分として1食単価の約10%相当額の補助金を交付している。今後については、保護者の皆様からの給食費負担を変更するのか等、給食費を無償化している自治体の事例なども参考にしながら、研究しているところである。子どもたちのために、安全で安心な給食を、さらに美味しくよりよい給食提供ができるようにしていきたいと考えている。ご意見をいただき、引き続きご理解、ご協力の程よろしく願いいたします。

(2) 学校より

(栄養士より) *スライドに沿って説明

児童の保健給食委員会の活動で、「給食の良いところ」を発表する取り組みを行った。一つめは、「美味しいこと」であった。なぜ美味しいかという説明では、調理員さんが心を込めて作ってくれているからと、調理員さんの写真を使って紹介した。二つめは、「給食は栄養バランスがよい」こと。主食、主菜、副菜のバランスほか、毎日牛乳がつくこともよい。栄養バランスがよいので、苦手なものでも一口でも食べようと声かけしてくれた。さらに夏休みにも牛乳を飲もう！と呼びかけてくれた。三つめは、「新鮮な野菜が食べられる」こと。小平の野菜、井上農園さんの野菜が食べられることを紹介してくれた。発表当日は、小平夏野菜カレーの日でもあり、献立紹介も行った。

7月12日には、4年生が新聞づくりで調理員さんへの取材が行われた。調理員さんが素手でなく手袋で作業していること、作業の変わるたびにエプロンの使いわけをしていることなどに驚いていた。また、温かいもの、冷たいものが料理によって適温で提供できるように配慮されていることを取材してくれた。

学校給食は生きた教材といわれている。保育園、幼稚園では、身体の成長が大事とされていたが、学校給食では、さらに学びの要素が加わってくる。少し苦手なものでも、食べる経験ができるようにと思い献立を作成している。子どもたちが給食を通して、新しい食材を知ること、教科などで学んだことと合致して気づくことが学びになっていると思う。

二十四節気に合わせて季節の献立を実施している。そらまめ、グリンピースのさ

やむき、とうもろこしの皮むきなどの体験も実施している。子どもたちは、体験した自分達だけでなく、他の学年も食べてくれたか気になるようだ。そのほか、郷土料理、世界の料理、バスケットボールのワールドカップにちなんだ献立を取り入れた。

(3) 委託事業者より

(委託事業者) 学校給食調理の受託事業者である。全国の学校給食センター、単独校で130万人の児童生徒に給食を提供している。小平市内では7校受託している。会社設立より50年経過し食中毒事故ゼロである。従業員の体調管理、食品・調理の衛生管理を徹底し、安全な給食提供を継続していきたい。

(4) 保護者より

(保護者) 限られた予算で、安全な食材を選定し、毎日の献立作成が素晴らしいと思った。当日調理と、適温給食の配慮もありがたい。食器もかわいらしいと思った。苦手な野菜料理も学校では喜んで食べているようだ、季節の献立も家庭では難しいものもあると感じた。ありがたい。

(保護者) 自身が子どもころに飲んでいた給食の瓶牛乳を久々に飲むことができてよかった。物価高騰などの流れはあるが、給食費については、質や量を確保できるよう、未来の子どもたちのために、小平市の教育、保育に財政的な確保をお願いしたいと思っている。

(保護者) 毎日の家庭での話題は給食である。学校生活のことは、聞きにくいことも給食のことは話題がはずむ。当日の献立の詳細についても、いろいろ話してくれる。毎日考えていただいている給食はありがたい。試食して牛乳がとても飲みやすいと思った。自分は子どもの頃は飲みにくかった印象があったが、これなら苦手な子も飲めると思った。野菜がたくさん使われていてありがたい。家庭では、まねできないと思っている。

(保護者) 試食が美味しかった。子どもは、好き嫌が多く、野菜や、牛乳も苦手だった。牛乳は、先生から少しずつ飲めるように声かけしてくれたおかげで、今では一本飲めるようになった。実際に飲んでみたら、飲みやすく、これなら飲めると思った。野菜も食べやすいように切られていて、栄養バランス、見た目も鮮やかで食欲が出る料理だと思った。

(保護者) 食器がきれいだと思った。子どもは、好き嫌いがあり、肉や魚も家でも積極的には食べないが、学校では良く食べているようだ。牛乳も最初は残していたが、飲めるようになってきている。給食はありがたい。

(保護者) 子どもは、小食なので、牛乳1本飲んでしまうと、食べきれないと思った。配膳で食事量を調整してくれると良いと思った。苦手な野菜も気づかぬうちに

おいしく食べられているのではないかと思う。

(質疑応答)

Q：食器はいつから変わっているのか？

A：委託化の際にアルマイトから強化磁器食器に切り替わった。

Q：割れることはないのか

A：割れる事はあるが、大切に扱うことを伝えている。

Q：牛乳は1年生から6年生まで量は同じ量なのか？

A：同じである。

Q：配膳量は調整してもらえるのか。

A：各クラスでは、個人に応じた量を盛り付けている。

Q：今日のすまし汁のだしの取り方が聞きたい。

A：出し昆布は、朝7時ごろに水に浸けて1時間程度置き、その後、火をつけて沸いたら、昆布を取り出し、続いてうすけずり節を入れ、濾している。

以上